

設立 平成24年 5月15日
開塾 平成24年 9月 8日
発行 平成27年 2月14日
(31号)



[事務局] 〒648-0094
橋本市三石台4-1-15
TEL 0736-38-3669
FAX 0736-38-3680
文責 事務長 宮本眞弓

人間学講座
第31講

「本当に大切なものは
目に見ることはできない」

鍵山秀三郎 先生



■ 老人五省

残念ながら今日本は、再生しなければいけないような国になってしまいました。日本人の資質の低下は著しいものであり、このままいけば日本は世界から冷たい目で見られる国になってしまうであろうと懸念しております。いっぺんに世の中を変えていくことはできないが、必ず少しずつ小さなことから遠くの方から弱いところから変えていけば、その力が集まれば大きな変化になっていくと確信しております。

戦争中に海軍兵学校には、五省というものがありました。

五省とは、至誠^{もと}に悖^{もと}るなかりしか／言行に恥ずるなかりしか／氣力に缺^かくるなかりしか／努力に憾^がみなかりしか／不精に亘^かるなかりしか

この五つを毎日唱和し、これに抵触する一日ではなかったか、と確認したのです。

戦後この五省の内容が素晴らしいということ、アメリカの海軍であるアナポリスの兵学校に取り入れられ、英訳されて掲げられており、今でも皆が唱和しているとのこと。日本人の考えはすごい、国境を越えて敵味方を越えてこうして広まっていくな、ということをつくづく感じました。この五省をある医師が「老人五省」と作り直したものがあります。

姿勢に曲がりなかりしか／言語にもつれなかりしか／榮養に欠くるなかりしか／歩行に憾みなかりしか／頑固に互^わたるなかりしか

特に①の姿勢、そして③の榮養の偏りはないかは大切です。私は二十数年前からほとんど菜食ですが、このように元気にしております。④は歩くこ

とを面倒がったり嫌っていないか。このことは、私は努めて気をつけております。

毎朝五時一五分、まだ暗い中、公園に行き、掃除をします。明るくなつてくると草刈りをしたり、自動販売機の横の缶回収の箱をひっくり返して掃除をします。それは、あの中に捨ててはいけないものゝ犬の糞、オムツ、家庭ごみ、弁当がら等々が捨ててあるからです。なぜそういうことをするのかと尋ねられるのですが、缶回収に来た人が中をあけたとき、それらの関係ないゴミがあればムツとするでしょう。私がそれらを片づけければ、回収に来た人が「だれがやってくれたか判らないが、今日はきれいだな」と思い、その人もまた、誰かに良いことをするようになるのです。世の中に一人でもムツとしたり、腹を立てたり、悪い感情を抱く人が起きないようにしたい、これが私の願いです。

■ 父親からの教え

八〇年以上生きてきて、たくさんの人を見てきました。ちよつとしたきつかけで感情を抑えることができず、次々悪い連鎖をしていく人がいっぱいいます。それならば、その元を断つていく。これは私の父からの教えです。私の父は人がビックリするようなことは絶対しない。昭和二十年疎開をしていた頃、家の中ではなく表にトイレがありました。寒いときでも表に行くのですが、誰かがいくとつい目が覚めて自分もいきたくなる。その時父は「戻ってきてから行け」。暗いところで人に出くわすとビックリするからです。たとえ身内であってもビックリするようなことはよくない。子育てについても同様です。子どもを抱き上げるときも寝かせるときも、子どもを驚かさないように、スツと抱き上げたりスツと寝かせたりせず、私の父は自分の体を子どもにくつつけるようにして静かに行う



のです。驚くようなことをしていると気が荒くなる、優しい心に育てるにはビックリさせてはいけない、というのが父の考え方でした。私もそうして育てられ、私のきょうだいも五人とも争いごとが嫌いでいるのも父のお蔭だつくづく思います。その視点からいえば、今は残念ながら気が荒くなるような子育てをしている親がいっぱいいます。

■ 公と私の壁を作らない

日本にはお互い様という言葉があり、そういうことが日本の文化・民族性であるわけです。日本のすべてが良いとはいわないが、良かったことは見直していくこと、それが日本の再生につながっていくと思います。日本の文化、伝統、そして、ぜひ神話に関心を持っていただきたい。神話は、戦後ことごとく葬り去れました。神話は歴史的な史実ではないが、日本の国がどんな国であり、どんな民族かがわかるために有効なものです。大和民族には穏やかな民族です。ひとりひとりが穏やかで、カッとしたりムツとしたりすることが世の中に起きないようにしていかなければいけない。

そんな大きな目標に向かって私たちは何ができるのか？いっぺんに大阪を変えることはできません。しかし、自分の住む地域の一箇所から街をきれいにする、学校をきれいにする。そうしてひとつずつやっていくことによって、必ず目標達成は可能であると思うのです。いつからか、それは私の仕事ではない、と「公」と「私」を分けてしまいうようになりました。自分の家を一步出て落ち葉があれば、それを片づけるのは行政の仕事だと「壁」を作る。壁を作った途端、「私」の部分が肥大化し、公共心・公德心が失われます。自分たちでできることを行う、たとえば目の前の植栽のゴミをとることは大それたことではありません。いつも人間は、「公」の中に「私」があり、「私」の中に「公」があるのです。

(抄録 中川千都子)

《グループ討議会》

鍵山秀三郎先生の講義を拝聴したあと、講話の内容について、塾生各々がグループに分かれ討議、感動語録を発表しました。

【Aグループ】

- ① 知らないうちに自分も無意識の加害者になっていく
- ② 神話についての大事さを多く学ぶ
- ③ 公私の壁をつくることで、公共心が失われる

【Bグループ】

- ① 戦争の前後で百八十度価値観が逆転した
- ② 公德心を育てること
- ③ 無意識の加害者になってはならない

【Cグループ】

- ① 五省
- ② 神話を大事にする
- ③ 無意識の加害者にならない

【Dグループ】

- ① 人のせい、何かのせいにする
と不安が増幅する
- ② 愛国心を持つて国を守る
(右でもなく、左でもなく、仲良く)
- ③ 地域を守ることが国を守る

【Eグループ】

- ① 良き行動が、優しさの連鎖を広める
- ② 神話についてー大切さ
- ③ 無意識の加害者にならないこと



【読書会 Aグループ】

- ・進行 山路直美 塾生
- ・テキスト 「ありがとうございあmす」
- ・指導 中川千鶴子 副代表

「言葉の通りに、思いの通りに、すべては成る」というのが、宇宙の法則です。最高の祈り言葉「ありがとうございあmす」を、日常茶飯事に唱え続けることは、神様と一体の自覚を深めてゆくための、一番易しく、効果のある方法です。

人は順境に慣れると、いつしか感謝を忘れ、不平・不満・不足の心を起こしがちです。だからこそ感謝の心・本心に戻るためには、逆境も必要なのです。

自他の不幸・すべての苦しみの原因を、環境や他人のせいに行っている間は、いつまでたっても本心の自分に返ることはできないのです。一刻も早く本心の自分に戻らなければ、すべての責任は自分自身にあるのだと大きく認めることです。

五欲の心の奴隷になるな！ 五欲とは財欲・名誉欲・色欲・睡眠欲のことです。五欲の奴隷状態から解放され、自由になるためには、宇宙の大神様と一体の自覚・本の自覚を深めてゆかなければならないのです。



【読書会 Bグループ】

- ・進行 倉橋佐代子 塾生
- ・テキスト 「森信三先生 一語一会」
- ・指導 寺田一清 顧問

一月一日
人間がいったん決心した以上、必ずやり抜く人間になるには、「一パン根本の心がけ」としては、結局「つねに腰骨を立てている人間」になる」以外にはないと思います。

一月二日

人間として一番だいじなことは何かという宇宙、

- (1) 一たん決心したことは、必ずやり抜く人間になるということ、いま一つが
- (2) 人に親切になるという二つだとも思います

一月二日

五分の時間を生かせぬ程度の人間に、大したことはできぬと考えてよい。



五省

海上自衛隊第一術科学校

一 至誠に悖るるなかりしか
真心に反することはなかったか

一言行に恥づるなかりしか
言葉と行いに恥ずかしいところはなかったか

一 氣力に欠くるなかりしか
氣力が欠けてはいなかったか

一 努力に憾みなかりしか
努力不足ではなかったか

一 不精に亘るなかりしか
不精になつてはいなかったか

五省は昭和7年、第34代海軍兵学校長「松下 元少将」の発案により、生徒各自の行為を反省させて明日の修養に備えさせるため、五か条の反省事項を考え生徒に実施させました。

海軍兵学校では、夜間「自習止め5分前」のラッパが鳴り響くと、生徒は素早く書物を机の中に収めて、肅然と姿勢を正し、その日の当番生徒が、「五省」の各項目に問いかけ、その他の生徒は瞑目し、心の中でその問いに答えながらその日一日の自分の行動について自省自戒していました。

江田島で学んでいる海上自衛隊第一術科学校及び海上自衛隊幹部候補生学校の学生たちは、旧海軍時代の伝統を受け継ぎ、現在でも兵学校時代と変わらぬスタイルで毎晩自習終了時刻の5分前になると、五省の唱和により自分を顧みて、日々の修養に励んでおります。

第一術術科学校HPより

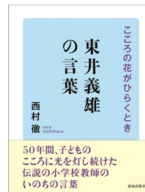


山口周防大尉の
美味しいみかんが、
塾長 山崎千晶様から
お送りいただきました。
どうも品上か、下さい。



《お薦め書籍》

『東井義雄の言葉』 西村 徹 著



発行 致知出版社
単価 一、二〇〇円(十税)
ISBN 978-4-8009-1064-6

東井義雄先生は半世紀以上にわたって、その生涯を教育に捧げた「伝説の教師」であった。森信三師はその東井先生を「教育界の国宝」と評したほどだ。著者の西村氏は小学校時代の六年間を、校長を務めていた東井先生のもとで過ごした。その後、自らも小学校の教師になるが、教師として、人として、様々な経験を積むほどに恩師の言葉が身にしみるようになったという。

《先哲に学ぶ》

安岡正篤先生

「本当の読書」

読書して疲れるようではまだ本当でない。疲れた時読書して救われるようにならねばならぬ。

「叱ってくれる人」

我々の生活が自堕落になった時、心から馬鹿と叱ってくれる畏敬する人を持つ者は幸せだ。

「本物と偽物」

故い友人を持つておる者ほど本物だが、絶えず新しい友人を漁って歩く者は、それが順境にある者ほど偽物だ。

(『安岡正篤 一日一話』より)

《三月 人間学塾・中之島》

■基本カリキュラム

*日時 3月14日(土)～15日(日)

*場所 金沢市

金沢星陵大学女子短期大学部学舎

*講座 14日 第一講 寺岡 賢先生

「神話に学ぶまとのいころ」

第二講 寺田一清先生

「人生二度なし先師に導かれて」

15日課 外学習(先師記念館探訪)

☆金沢ふる里偉人館

西田幾多郎・八田與一他

☆鈴木大拙館

☆兼六園にて解散

《予定》(午後0時30分頃)

*宿泊 都ホテル金沢

※13日は、北陸新幹線長野～金沢間が全線運行開始の記念日です。混雑が予想されますので、早めの準備をお願いします。

《郊外学習へー予定ください》

今期の郊外学習は、四月二十九日(祝日)

「東井義雄先生のふる里を訪ねて」を企画いたしましたので、多数のご参加をお待ちいたしております。

場所 兵庫県豊岡市但東町

・東井義雄先生生家「東光寺」訪問

講話 東井浴子さま

・東井義雄記念館

(予定) 出石町探訪 出石城跡↓辰

鼓楼↓城下町散策

アクセス 昼食はー出石皿そば

往復 大型観光バス利用

大阪なんば駅付近集合

出発 午前9時30分ごろ

《淀川掃除に学ぶ会》 短信

世話人 志村隆夫

▼2月8日(日)は朝から雨模様で空も暗く、一日中雨が降りそうな気配でした。ご参加された皆様も、しっかりと雨合羽で身支度をして、万全の用意をされていましたが、掃除開始の8時半になりますと雨もあり、最後まで掃除日和となりました。

3年前の年次大会の時も、朝8時半迄は土砂降りの豪雨でしたが、開始寸前に降り止んだことを思い出しました。本当に「ツイてるツイてる」です。

参加者はいつものメンバーの約50名と、年次大会でもあり、学生さんが約600人ほど参加され、ゴミ拾いにいつもは行くことのない鉄橋の向う側迄、綺麗に掃除出来ました。成果はゴミ袋150袋以上、粗大ゴミもたくさん拾うことが出来ました。

また、脳梗塞で手術をされた石丸様も、元気に参加され皆様と明るくご挨拶されていました。

来月は大阪市清掃局の都合で休会となります。

問合せ 〇九〇ー一八九四ー一七六五(小西)

〇九〇ー七五五五ー八七七七(志村)

